

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703667		
法人名	有限会社 精祥		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	〒807-0821北九州市八幡西区陣原3-25-1		
自己評価作成日	平成25年8月15日	評価結果確定日	平成25年9月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成25年9月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日2ユニット合同レクリエーション(起立訓練など)・中庭季節感を取り入れる工夫(花、菜園など)・地域との交流
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である入居者の尊厳や人間性の尊重等を、毎日朝礼で唱和している。併設の特定施設と合同で会議や様々な委員会が設置され、毎月の職員会議、チーフ会議、責任者会議の開催で、情報交換や職員の異動が円滑になり、法人が一体となって理念の具現化に努めている。認知症や介護に対する姿勢を重視した採用で、常勤職員が多く外国籍の職員もあり、能力を発揮しながら働ける体制がある。特定施設からの入居者は心身の状態が改善し、家族に来院するよう連絡するまでなり、家族への手紙を家族の要望で預かるなど、状況に応じた対応をチームで行っている。今後は家族から「次に来るのが楽しみ」との意見が出るような関わりを、担当者会議で話し合う予定である。そして、自治会等の行事案内を受けたり、法人主催の夏祭りの案内等で、地域との交流を継続しながら、認知症や介護について情報の発信が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/事業所名 れんげ草/グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼後職員全員で理念を唱和し実践につなげている。	毎朝唱和されている理念は、就職して2ヶ月あまりの職員にも浸透して、仕事のはじまりの心構えとなっている。理念に謳っている入居者の尊厳や人間性の尊重等について、日々理解しながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会主催のイベントの参加や事業所の祭りに招待している。その祭りには、地域の方がボランティアで参加もしている。また年2回地域の清掃活動に参加し交流に努めている。	開所以来、地域の関係機関等に広報広宣等に努力している。自治会や市民センター主催の行事案内を受けたり、法人主催の夏祭りは地域に案内し、踊りを披露する職員の浴衣の着付けを地域のボランティアにお願いしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居、介護相談などについては、パンフレットを置きいつでも相談に応じるようにしている。また運営推進会議のなかで地域の役に立つ事がないか声を掛けている。(災害時の避難場所の提供)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に参加して頂き、2ヶ月に1回開催している。活動報告・入居者様状況・地域行事情報交換など行ないサービスの向上に活かしている。	自治会長等の地域代表や地域包括支援センター職員が参加し、定期的で開催されている。家族に参加をお願いしているが、仕事等の都合で参加がない現状である。会議ではのぞみだよりで行事等を報告し、参加者から地域の情報を得ている。会議録を整備し、内容を掲示板に貼り出している。	より実りある運営推進会議を開催するために、日時や会議内容の工夫等で、家族の参加をお願いします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設内で起こった問題等を包括支援センターへ相談するように心がけている。	暴言、暴力があり、ホームでの生活が困難な事例を包括支援センターに相談している。家族を交えて話し合いを重ね、包括支援センターから、他施設の紹介を受けるなどの連携を取り、退居を支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	福祉用具(センサーマット・リクライニング車椅子)など活用して拘束をしないケアの取り組みを行なっている。また月1回の安全対策拘束廃止委員会・スタッフ会議など開催し検討している。	職員への意識づけのため、外部研修や内部研修を行っている。家族の希望でセンサーマットを利用している入居者もある。車イスを机に接近する場合は、その都度拘束にならないように配慮している。外出傾向のある入居者は、目配りしながらワンツーワンの対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待と思われる行為が見られた時は、個別に面談など行ない注意を促し、虐待をしないように防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している方はいないが、市町村研修の研修に参加し研修後、勉強会にて内部研修など行なっている。入居時に必要性のある方には説明している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度のパンフレットを整備し、入居時随時説明している。現在まで制度等の活用はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安・疑問点などあれば遠慮なく言っていたるように配慮し納得して、いただけるように図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が、職員への意見や苦情を投函できる意見箱の設置や要望があれば書いていただく用紙を郵送している。面会時での意見や苦情は記録に残し会議(苦情委員会)で報告し対応策など講じている。	以前開催していた家族の会は活動の中心だった家族がいなくなり、現在は休止状態である。定期的ののぞみ便りを発行し、家族が意見を表出する機会を設けている。また、訪問された家族にお茶を出し、個々の意見を伺っているが、特段の意見はない。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回スタッフ会議を開催し問題があれば意見交換している。また特定施設と合同で会議を開催して意見交換、情報交換、ケアの改善などの機会を設け、反映させている。	法人の組織体制として、毎月の職員会議、チーフ会議、責任者会議などが開催されている。特定施設との合同で会議や様々な委員会が設置され、情報交換だけでなく職員の異動も円滑にしている。職員会議では、昼休みの取り方について、話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成前にあらかじめ希望休など聞き極力職員の生活状況と希望に応えられるようにしている。また病気、冠婚葬祭など急な変更にも対応できるように勤務の調整に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。職員についてもレベルアップできるように内部、外部研修、資格研修など参加していただくように配慮している。	法人でネットや民間広告、ハローワークで募集している。管理者も認知症や介護に対する姿勢を重視して面接に立会い、さらに現場の職員の意見も聞きながら採用している。男女の20～60歳までの年齢層に幅のある職員が雇用され、常勤職員が多い。併設の特定施設からの異動や外国籍の職員もあり、能力を発揮しながら働ける体制がある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	基本理念にもとづいた人権教育を、全体ミーティングや朝礼、夕礼時、折にふれ実施している。	外部の人権研修に参加した職員はホームや特定施設職員に伝達研修を行っている。入居者の笑顔から、人権を尊重したケアかどうかを判断している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修受講する職員に対しては、受講費用は、全額施設が負担している。また受講後、他の職員に伝達研修など行なっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同施設系列のグループホーム(はまゆう・やまぶき)との定期的な会議、実習勉強会などを行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行ない顔馴染みの関係を作り、体験入居も行なっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対しても充分説明を行い納得されるまで、ご相談を受け止める努力をしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状況を見極め、ご本人、ご家族の希望などサービスの必要性があれば利用できるように支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設見学や体験入居をして頂き、職員や他の入居者様、場の雰囲気など体験して検討して頂いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できる限り、ご本人の希望に添えるように家族と共に連携、協力して、ご本人を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お寺の住職がお経を唱えに来られたり、以前住んでいた近所の方が面会に来られたりと、一人ひとりの思い出を大切に、希望に応じて支援している。	地域の方が入居となり、以前居住していた地域の婦人会の友達の訪問がある。自治会の老人会や市民センターの行事のお誘いが途切れないように、努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や性格など職員が把握し、どの利用者様も良い関係が築けるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に今後何かお困りでもあるときは相談に応じる事を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅へ帰るとの思いが強い方には傾聴を行い、散歩やご家族との面会、外出など行いご本人の思いや意向に応えられるように努めている。	センター方式アセスメントシートで情報を共有し、併設の特定施設からの入居では情報の提供を受けたり、職員を担当制にしてさらなる思いや意向の把握に努めている。なぜか赤い色に反応され、物を壊したり外に出て行こうとされる入居者の行動に、全職員が目を離さず支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族から聞き取りを行いアセスメントシートを作成し職員間で共有できるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お手伝い(お絞り巻き・食器拭き・床掃除・お花の水まきなど)や会話などを通して、心身状態を見極めながら支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体状態変化時、退院時(医師・看護師・S W)ご家族、介護士(担当者)、管理者、ケアマネなど必要な関係者と話し合い介護計画の見直しを行なっている。	特定施設から入居に至った入居者は心身の状態が改善し、家族に来訪するよう連絡するまでになり、家族の疲労が激しく、家族への手紙を家族の要望で預かるなど、状況に応じた対応をチームで行っている。また、今後は家族から「次に来るのが楽しみ」との意見が出るように、担当者会議では入居者のできることを支援する介護計画を話し合う予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を明確に記録している。また課題表を作成し情報の共有や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今後も取り組んで行く。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し安全で入居者様が楽しいと思えるように支援していく。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を優先している。特に意向がない場合は、GH提携医を紹介している。	協力医療機関から週2回の訪問診療が受けられるように支援している。また、歯科、眼科、精神科の受診は、入居者や家族の状況に応じた支援を実施している。かかりつけ医からの指示で、動く前に甘い物を食べ、失神を回避している入居者もいる。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携を図り入居者様が適切な往診、受診が受けられるように支援している。 (日常の健康管理など)		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談にも努め病状把握を行なっている。またご家族と連絡、面会など行い安心して治療できるようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合いの場を持ち、必要によっては、主治医と話し合いを行いスタッフ全員で方針を共有している。	緊急対応マニュアルや方針を整備し、入居時に説明をしている。看取りに関する職員の力量を勘案しながら、医療機関に入院せざるを得ないぎりぎりまでホームでの生活を支援する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えすべての職員が、応急手当や初期対応できるように訓練を定期的に行なっている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設の避難訓練や地域の防火訓練などに参加。また運営推進会議で議題にあげ地域との協力が得られるよう協力体制をお願いしている。	地域の防災訓練に独歩ができる入居者と参加している。年2回の避難訓練は法人全体で実施しているが、訓練後の話し合いでは、訓練なので緊迫感がなかったとの反省もあった。消防署の指導でAEDの取り扱いや救急蘇生法を学んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。	入居者の心身の状況に応じた丁寧な対応や声かけで、理念に謳った尊厳や人間性の尊重したケアに努めている。職員の対応の良し悪しについてコメントする入居者もあり、入居者の心身状況の把握や、職員の気づきにもなっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの力に合わせた働きかけを行い、ご自分で決定できるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態に合わせて散歩したり家事活動をしたり、歌を歌ったりと希望に添った支援をしているが、危険が伴ったり、トラブルのもとになる場合は希望に添えない事もある。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族、ご本人の希望を優先し対応している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望食を聞いたり、後かたづけ、テーブル拭き食器拭き・床掃除等、無理強せずできる範囲内でスタッフと共におこなっている。	入居者の状況に応じてテーブルを分けている。ミキサー食やとろみ食も用意され、食事介助や見守りで全量摂取の入居者はほとんどであった。週2回の朝のパン食は、入居者に好評である。公園で昼食を摂ったり、外出の折は外食を楽しんでいる。また、家族と外食する入居者もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を確認し記録している。必要な水分量が確保できるよう、毎食、午前、おやつ時、夜間、入浴後、その他、希望時、飲料を提供させて頂いている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔支援をしている。ご自分でできない方はスタッフ介助にて行なっている。口腔内に問題があれば、ご家族と相談し、歯科の受診、往診など対応している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しその方の力を見極め排泄の自立に向けた支援を行なっている。	引き戸に大きくトイレと表示され、入居者の能力に応じた排泄の自立支援が行われている。排泄パターンを職員が共有し、ほとんど失敗なく支援されている。重度化でおむつ使用者もいるが、リハビリパンツやパットの使用でトイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分管理(水分量チェック表)食事工夫、排尿排便管理(チェック表)を行なっている。また排便困難な方は、主治医と相談しながら薬のコントロールなど行なっている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調とタイミングに合わせて入浴して頂いている。	各ユニットが交互に週3回の入浴を支援している。以前は異性による入浴支援を拒否していた入居者もあったが、現在はいない。入浴を拒否される入居者には、トイレに誘導し、衣服を脱いでもらうなどその方なりのペースに合わせた支援で、入浴を支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりにあった安心して入眠できるように支援している。中途覚醒、不眠時はフロアにてスタッフと共に過ごして頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者別の薬ファイル、薬手帳があり、変更などあれば、連絡ノートに記載し変化の確認に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの力を見極め、気分転換が図れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状況に合わせて戸外に出かけられるように支援している。またご家族やご本人からの希望があれば、対応している。	ホーム周辺は住宅の公園や野菜を作っている畑を見に、散歩している。地域の行事やコンサート、季節の花見に出掛けたり、家族と外食に出かける入居者もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人おひとりの力に応じて、またご本人の希望があれば、ご家族に相談して所持して頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を居室に取り付けている方が2名おられる。また居室担当スタッフと共に年賀はがきを出したり支援に努めている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭があり、季節に感じられるように花、野菜など植え込んでいる。常に清潔に配慮し居心地よく過ごせるような工夫などしている。(日差しの強い日はよしずなど利用している)	特定施設の一階にホームがあり、玄関は入り口に設置されたボードが目印になっている。玄関の正面に中庭があり、観葉植物や洗濯物が干され、居心地よい居住空間を創っている。共用空間の厨房前に机や椅子、テレビの前にソファやテーブル、またキャスター付の畳の台が設置されている。廊下の壁にはその日のメニューやスナック写真、入居者の貼り絵や押し花の額などの作品が飾られている。入居者はそれぞれお好みの場所で寛ぎ、職員と談笑したりしている。よしずで光の差込を調節し、空調や換気に配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにおいて談笑できる場所を提供したり、ご本人の思いを尊重した支援をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具(筆筒・仏壇・椅子・テーブルなど)や好みの茶碗、お箸など使い生活して頂いている。	居室入り口に名前や行事等のスナック写真が掲示されている。持ち込まれたタンスには中身が分かるように品物名が記載され、配偶者の遺影や家族写真が飾られるなど、各入居者の状況に合わせた居室づくりをしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるように張り紙をしたり、危険と思われる物は、排除し環境整備を行い安全に生活が送れるように工夫している。		